

校長室より

秋になりました。「〇〇の秋」といえば、みなさんは何を思い浮かべますか。

よく聞かれるのが、食欲の秋、紅葉の秋、実りの秋、読書の秋、芸術の秋、行楽の秋、スポーツの秋、等々です。それぞれの秋には理由があると思います。ところで、みなさんの秋を「〇〇の秋」と表せばどうなりますか。

本校は二期制を採っているため、定時制、通信制とも9月上旬に定期試験が設定されています。本校生の秋は「勉学の秋」から始まりますね。通信制の皆さんは前期にスクーリングの出席やレポートの提出を頑張ってきました。この誌面を読んでいる頃には、すでに前期試験が終了しているはずです。結果はどうだったでしょうか。

さらに卒業年次生は受験や受験準備の季節となり「進路の秋」を迎えています。

進学の方は、すでに一部の大学や専門学校のAO入試や推薦入試が始まっており、早くも合格を果たした生徒もいます。おめでとうございます。しかし、つい先日、センター試験手続き説明会が開かれたように、多くの受験生の本番はこれからです。

就職の方は、いよいよ9月16日(土)から新規高卒者の就職試験が始まります。7月～8月には、履歴書の準備、学科試験の勉強や面接練習など、受験準備に勤しむ姿が多くみられました。受験を控えている生徒のみなさんは、今できる備えをしっかりと臨んでください。

よく「本番は『平常心』で臨め」と聞きます。でも本番で緊張するのは当たり前のことです。緊張状態の中でも、普段と変わらない心(平常心)に近づけて力が発揮できるよう、普段から備えるしかありません。「備えあれば憂いなし」です。その備えとは、必要とされる準備の一つひとつ取り組むことと、併せて「気」の持ち方を整えることです。例えば、本校のCCP(キャリアカウンセリングプログラム)で指示のあった具体的な事柄に取り組みつつ、そこから本気、元気、根気、ヤル気…など、前向きな「気」を自分で高めていく、ということです。面接練習などは絶好の機会と言えるでしょう。

難しいことをやるのではなく、まずは当たり前のこと、できることを計画的にコツコツとやっていくことが肝要です。受験だけが本番ではありません。本校を卒業してからが人生の本番です。その本番に備え、日々の取り組みを大切にしましょう。

さて、本誌15ページの新聞記事に掲載されているように、8月31日(木)、本校通信制課程3年次生の中村祐希さんが「シャッター押しますボランティア」を始めました。自ら手を挙げてくれた中村さんに敬意を表します。当日、中村さんは大忙しでした。まだまだ人手が必要なため、後に続く人が現れてくれることを期待しています。

重ねて嬉しかったことは、中村さんの記事を書いたのは、今春、山陰中央新報社の記者となられた本校1期生、古瀬弘治さんだったことです(写真)。取材中の二人の姿を嬉しくも頼もしくも思い、写真に収めました。私の「気」も高まりました。感謝!

そして、「スポーツの秋」にふさわしいニュースです。本校通信制2年次生の濱崎未来さんが10月4日から開催される国体(ゴルフ)に島根県代表として出場されます。みんなで応援しています。「頑張れ 宍道高校 濱崎選手!」健闘をお祈りします!



編 | 集 | 後 | 記

先日ラジオを聞いていると、小・中学生の『将来の夢ベスト3』を発表していました。サッカー選手、保育士、ケーキ屋さん…。ケーキ屋さんはいつの時代も不動の職業ですね。なんとなんと今年はYouTuberになりたいという子どもたちの姿がちらほら…。時代の変化と共に『夢』も大きく変化していますね。あなたの『夢』は?

さあ、いよいよ後期のスタートです。目標に向かって、夢に向かって前へ進みましょう!!